

かいぎ ろく 会 議 録

かいぎ めいしやう 会議の名称	だい かいこまきしたぶんかきやうせいきやうざいかい 第3回小牧市多文化共生協議会			
かいさいにちじ 開催日時	れいわ ねん がつ にち きん じ ふん じ ふん 令和2年2月3日(金) 19時00分～20時00分			
かいさいばしょ 開催場所	こまきしやくしよ ほんちやうしや かい かいぎしつ 小牧市役所 本庁舎3階 301会議室			
しゅつせきしや およ 出席者 及び けつせきしや 欠席者	<p>しゅつせきしや ○出席者</p> <p>いいん 【委員】</p> こんどうかいちやう ひだ の いいん かわついいん こやなぎいいん まえだいいん すぎきいいん ひらさかいいん 近藤会長、肥田野委員、川津委員、小柳委員、前田委員、須崎委員、平坂委員、 さかもといいん おぐらいいん しみずいいん なかむらいん やまもとじゆんだいいん くりきいいん がっこう 坂本委員、小椋委員、清水委員、中村委員、山本順大委員、栗木委員(学校 きやういくかしどうしゅじ はやしいいん しみんせいかつぶじちやう 教育課指導主事)、林 委員(市民生活部次長) <p>じむきよく 【事務局】</p> いとうしつちやう かねこかやちやう 伊藤室長、金子係長 かぶしがいいしやさーべいりさーちせんたー いたくぎやうしや 株式会社サーベイリサーチセンター(委託業者) <p>けつせきしや ○欠席者</p> やまもとまこといいん たかさきいいん あらがきいいん 山本真琴委員、高崎委員、新垣委員			
ぼうちやう か ひ 傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否	ぼうちやうにんずう 傍聴人数	めい 0名
かいぎしだい 会議次第	かいかい 1 開会 2 あいさつ ないやう 3 内容 たぶんかきやうせいすいしんぶらん だい じぶらん あん (1)多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)について た 4 その他			
はいふしりやう 配付資料	しりやう 資料 こまきしたぶんかきやうせいすいしんぶらん だい じぶらん あん 小牧市多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)			
といあわ さき 問合せ先	こまきしやくしよ しみんせいかつぶ たぶんかきやうせいすいしんしつ たぶんかきやうせいがかり 小牧市役所 市民生活部 多文化共生推進室 多文化共生係			
かいぎないやう 会議内容	じ べー じいこう きんしやう 次ページ以降を参照			

かいぎ ないよう 会議 内容

1 かいかい 開会

しみんけんしょうしょうわ
市民憲章唱和

2 あいさつ

こんどうかいちよう
近藤会長よりあいさつ

じむきょく (事務局)

ほんきょうぎかい こまきししんぎかいとう かいぎ こうかい かん ししん だい じょう きてい もと げんそく
本協議会は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」第3条の規定に基づき、原則とし
こうかい
て公開することとしていますが、ほんじつ ぼうちよう もう こ
今日は、傍聴の申し込みがありませんでしたので、ご報告させてい
ただきます。

つづ ほんじつ しりよう かくにん
続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

しりようかくにん 《資料確認》

しりよう かぶそく
資料に過不足がございましたら、じむきょく
事務局までお申しつけください。よろしいでしょうか。

それでは、しだい ないよう うつ
次第の3「内容」に移りますが、今後の進行につきましては、こんどうかいちよう ねが
近藤会長にお願いしたい
と思います。こんどうかいちよう ねが
近藤会長、よろしくお願ひします。

3 ないよう (1) たぶんかきょうせいすいしんぷらん だい じぶらん あん 内容 (1) 多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)について

それでは、しだい ないよう
次第の3「内容」の「(1) 多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)について」、
じむきょく せつめい もと
事務局に説明を求めます。

じむきょく (事務局)

それでは、こまきしたぶんかきょうせいすいしんぷらん だい じぶらん あん
「小牧市多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)について」、ご説明致します。おそ
れ入りますが、おてもと しりよう らん
お手元の資料をご覧ください。

このあん ぜんかい きょうぎかい
案は、前回の協議会でいただいた意見を反映するとともに、さいど し ないぶ けんとう
再度、市の内部で検討させて
いただき、さくせい
作成いたしました。

まず、ぜんたいてき へんこう てん
全体的に変更した点としましては、がいこくじんしみん かた よ
外国人市民の方にとっても読みやすくなるように、
もじ るび ふ いろ いらすと など、でざいん ついか
文字にルビを振り、色やイラストなど、デザインを追加しました。また個別の変更点につきまして
は、ぺー じじゅん おも
ページ順に主なものをご説明いたしますので、よろしくお願ひします。

まずは、1枚めくっていただき、2ページをお願いします。「はじめに」と記載されています。変更点ではありませんが、この部分に市長のメッセージを記載する予定であり、パブリックコメントの段階では、空欄とさせていただきます。

3ページをお願いします。3ページ下段の「用語の説明」の表の一番下に、SDGs についての説明を追加いたしました。SDGs は、後程ご説明するプランの位置づけに関連するため、新たに用語の説明を加えました。

4ページをお願いします。「もくじ」でご説明しますが、今回、第4章の資料編を追加いたしました。資料編では、多文化共生協議会、この協議会と、多文化共生推進委員会の、要綱と名簿を掲載します。具体的には、第2回の協議会でお示した要綱、名簿と同じものを掲載する予定です。特に名簿につきまして、修正点がある場合は、後ほどご連絡いただければ幸いです。なお、要綱や名簿については具体的に検討する余地がないため、この章は、パブリックコメントにおいては省略いたします。

少し飛びまして、8ページをお願いします。2019年4月1日現在の外国人住民数を掲載しており、最後に「リーマンショック前の水準に近づきつつあります。」となっておりますが、現在はその水準を超えているとの指摘が事前にございましたので、この部分を「リーマンショック前の水準に近くなっています。」と修正した上で、2020年1月1日現在の外国人住民数が9,912人で、リーマンショック前の水準より増加している旨の注釈を加えさせていただきました。

次に、13ページをお願いします。13ページの表の下になります。第1次プランにおける「めざすこと」の達成状況を集計した表の下に、第1次プランで未達成となった内容や理由として、スマートフォンの普及に伴う紙資料配布機会の減少や、各主体の役割が明確でなかったことなどを挙げました。

14ページをお願いします。第2回こまき調査の実施内容を表にして追加しました。また、表の下の説明文において、単純集計結果からわかったことに加え、クロス集計結果からわかったことを記載しました。

15ページをお願いします。15ページでは、昨年7月に実施したワークショップに加え、10月に実施したこまき市民討議会の説明と意見について記載させていただきました。市民討議会は、一般社団法人小牧青年会議所と市の協働推進課の協働により、以前から実施しておりますが、

今年度は多文化共生をテーマとし、12月にその報告をいただきましたことから、このタイミングで本計画の中に加えさせていただきます。

次に、20ページをお願いします。めざすこと②につきまして、24ページの現状説明では、自治会以外にも地域協議会などの地域コミュニティ組織があると説明しており、それに基づく取り組みについても、「自治会等」としているにもかかわらず、この部分だけ「自治会」となっているとご意見をいただいておりますので、この部分につきましても、「自治会等」に修正させていただきます。

22ページをお願いします。KIAの挑戦すること2項目目について、前回の会議のご意見に基づき、「市が行う防災訓練を外国人市民も理解できるように通訳や企画運営をサポートします」を「外国人市民対象の防災訓練を実施することにより、外国人市民の防災に対する意識の醸成を図ります」に変更いたしました。

23ページをお願いします。市が「挑戦すること」の内容が記載されていますが、課や室などの組織名が、一部変更となっております。これは、市におきまして、本年4月に組織改正を予定しており、その内容に沿って所管する組織を見直したものであります。

また、多文化共生推進室の3項目目に、「災害時外国人支援ボランティアの育成」を加えました。

次に、27ページをお願いします。「めざすこと③ 誰もが暮らしの情報を知ることができるようにします」を考えた理由ですが、1行目の文章がわかりにくいとのご意見をいただいたため「生活に必要な情報の多くは日本語で書かれているため、外国人市民にとってそれを理解することは、日本人市民に比べて難しくなります。」としました。

次に、31ページをお願いします。KIAの挑戦すること、1項目目の内容で、小学校入学準備スクールをプレスクールにしました。その次の2項目目ですが、KIAが実施しているジュニア企画という事業を参考にして、「外国人児童と日本人児童が交流する中で、母国や外国の文化・習慣を学ぶことのできる場を提供します。」としました。

次に、34ページをお願いします。KIAの挑戦すること、1項目目の最後が、「食を通して学びます。」となっておりますが、委員よりKIAが学ぶように受け取られるのではとのご意見をいただきましたので、「食を通して学ぶ機会を作ります。」に修正させていただきました。また、2項目目の最後

の部分は、「行事を増やします」を「行事の充実をめざします」としました。次に同じく4項目目の最初の部分は、地域の行事はKIAではなく地域が主体となって運営してほしいというご要望があったため、「地域や関係機関、市が」を「地域が主体となった、」としました。

次に、38ページをお願いします。実施主体の役割の表の下に、互いに連携して助け合うことで、多文化共生を推進していく旨の文を入れ、この表に書かれた役割だけでなく、各主体が連携していくことも加えさせていただきます。

39ページをお願いします。「2. 位置づけ」2段落目以降において、上位計画となる「小牧市まちづくり推進計画」において、「多文化共生」の推進はSDGsの目標と合致しているため、それを踏まえたうえで取り組みを進めていくという説明と、それぞれの「めざすこと」との対応表を追加しました。

次に、42ページをお願いします。「めざすこと」の評価指標の中で、下から2番目に、「外国人生徒の中学卒業後の進学率」を追加しました。この指標は、まちづくり推進計画でも使用する予定となっており、当該計画との整合性を図りつつ加えたものであります。

以上が資料の説明となります。こちらの内容でご了承いただいた後には、2月5日の多文化共生推進委員会での了承を経て、2月中旬から3月中旬にかけて、パブリックコメントを実施する予定となっております。なお、誤字脱字やルビ抜けの修正、デザインの細かい変更などは、今後も行いう可能性があるので、予めご了承いただきますようお願いいたします。

以上を持ちまして「多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)について」の説明とさせていただきます。

(近藤会長)

事務局の説明が終わりました。「多文化共生推進プラン【第2次プラン】(案)について」、何かご意見・ご質問はございませんか。

(山本順大委員)

前回、学会で参加できなくて、本当は前回発言したほうが良かったのですが、発言します。このプランは日本語がわかる人が読めばいいのか、タガログ語やスペイン語を話す人には、相当日本語が上手い人でないと難しいと思われそうですが。

この、掛け軸になっている部分でも4か国語なりに翻訳されていると、小牧市、多文化共生な

なか進んでいるな、となると思うのですけれど、いかがでしょうか。

ひだのいいん
(肥田野委員)

弊社は、外国人を多く雇用しております、日本語が読めない人もたくさん雇用しております。それで、多文化共生推進プランを読んでもらったのですが、これは、例えばベトナム語に対してアルファベットで言い方(発音)を書いてあるだけの様なものだから、さっぱりわからないという意見がありました。ダイジェスト版を作るということですので、そちらで多言語化するというのですが、プラン全体のものにルビが必要なのかと思います。日本人(日本語が読める人)としては、読みづらいなと思います。

こんどうかいちょう
(近藤会長)

ダイジェスト版のことも含めて回答をお願いします。

じむきょく
(事務局)

今、肥田野委員がお話になったとおり、この後、概要版を作りますが、概要版を多言語化する予定です。そして、全体のものに対して、ルビがいるのかということですが、最初日本人に対しても読みにくいということがありましたので、ルビを小さくする、などの工夫をさせていただきました。ただ、難しい言葉がたくさん入っているというご指摘もありますが、外国語を母語とする人を完全にシャットアウトするべきではないという考えからルビをふったということですのでご了承いただければと思います。

ひだのいいん
(肥田野委員)

逆に歩みよるのであれば、このプランも多言語化するのが歩み寄りであると考えます。

こんどうかいちょう
(近藤会長)

なかなか難しいことではあるので、今後の課題ということで、ご理解いただきたい思います。

やまもとじゅんたいいいん
(山本順大委員)

あと、もう1点よろしいでしょうか。ベトナム人の子どもが来日しております。テレビでもやっておりますが、ベトナムの人は英語ができませんので、すごく困っています。市庁舎に英語が書いてありますが、通じないです。タガログ語を話す方は英語ができるようですが、そうするとベトナム語となりますので、相手に通じる状態をどうやってつくるのか、ということです。本来は2回目の会議で申し上げるべきなのでしょうが。

こんどうかいちょう
(近藤会長)

がいようばん べとなむご ほんやく
概要版はベトナム語にも翻訳しますか。

じむきょく
(事務局)

べとなむごばん さくせいよてい
はい。ベトナム語版も作成予定です。

ひだのいいん
(肥田野委員)

ぜんかいい よ ぶらん けんじょうしゃ む がいこくじん
これも前回言えば良かったのですが、プランはどちらかという健全者向けであって、外国人で
あっても障がい者の方、社会的弱者の方がおみえです。そういった誰もが情報を得られるよう
な配慮がないと思います。誰もが暮らしの情報を得られるということで、ここに福祉課を入れてもよ
かったのではないかと思います。

じむきょく
(事務局)

こんかい ひろ がいこくじん かた こうれいか
今回、そこまで広げることができなかったということがあります。外国人の方がどんどん高齢化し
てくるといことも考えた内容も入っておりますが、もっといろいろな方にとって、日本人にとっても
同じですが、広げていくということは引き続き課題としたいと思います。

こやなぎいいん
(小柳委員)

ぶらん すいしん なか じゅうよう じちかい なか がいこくじん みな にちつじょう
このプランを推進していく中で重要なことは、自治会の中で、どのように外国人の皆さんが日常
生活の中で交流ができるかだと思います。実際にこれを進めていく上の運用面ですが、自治会が
腰を据えてやっていかなきゃなりません。学校や職場では、それぞれの体制が整っていますが、
自治会となると、外国人が集中して住んでいる地域と住んでいない地域とありますから、どれだけ
推進できるかが重要だと思います。このプランができたからには、何らかの方向性をもって自治会
でも推進していかなばと思っております。特に地域協議会ができたことで、その役割は重要になっ
てきています。地域協議会の中でもどうやって取り組むのか考えていきたいです。

じむきょく
(事務局)

だんたい ちょうせん か かって
いろいろな団体の挑戦することが書かれています。それぞれ勝手にやってもらうわけではな
く、連携して取り組む必要があります。各団体が放っておかれることはありませんので、ご心配な
く。そして、協力をよろしく願います。

くりきいいん
(栗木委員)

がいこくじん せいと ちゅうがっこうそつぎょうご しんがくりつ あ おも ちゅうがくそつぎょう
外国人生徒の中学校卒業後の進学率が上がればよいという思いはありますが、中学卒業

間際で引っ越してくる生徒もいます。どんどん受け入れを進めていくとこのような状況もおこり、進学率としては下がってしまうので、頑張ったからといって上がるものではないため、これをひとつの指標として測ることは危険かと思えます。

(事務局)

こちらの部分ですが、まず不就学は防ぐのだ、ということです。どこかで教育を受けてほしい、教育を受けた結果、就職も進学もできない人を作らないようにしたいということです。いろいろな指標があり、これだけでひとり歩きするものではないということを理解いただきたいと思います。

(近藤会長)

私のほうからもお聞きしてよろしいですか。自治体によっては、年齢(学年)を柔軟に対応していて、ある程度上の年齢でも中学生として受け入れたりしているようですが、もうひとつは夜間中学が受け皿になっているようです。愛知県ではあまり例がないようですが。ある程度、学年を自由に選択して受け入れるということはできないのでしょうか。

(栗木委員)

できるか、できないかの判断ですと、文部科学省はできるだけしてくださいと通知を出していますので、自治体ごとに考えることが可能です。現在小牧市としては、基本的に年齢で学年を決めていて、15歳をすぎた生徒に関しては、名古屋市の夜間中学を目指していただくということになっています。

(平坂委員)

学習支援教室をやっていますが、現在不就学の子どもたちと、中学校に籍を置いているが、15歳を過ぎて来日したため、日本語がわからなくて、学校に行ってもわからないので、学校に行きたくない、言葉がわからない状況で教室にいるのも嫌だ、という子どもたちが学習支援教室にいます。この間も教育委員会へ聞いてきたのですが、16歳、17歳の少年でフィリピンで9年の課程を修了していないため、進学ができない。それで、夜間中学へ行って入学手続きをしようと思ったのですが、来日して7か月しかたっていないため、日本語がよくわからない。電車の乗り方もよくわからない。夜間中学へ通うとなると、帰宅するのは夜遅くなってしまうので怖い。なので、勉強はしたいけれどなかなかできない状況にいます。それで小牧では、そういった子どもたちを受け入れていくところが少なく、できたら、中学校に1年間だけでもいいので戻って学ぶことができれば、もう少

しは日本^{にほん}で住みやすくなるのかなと考^{かんが}えています。もちろん進学^{しんがく}はしてほしいです。せつかく日本^{にほん}にきたのに夢^{ゆめ}も希望^{きぼう}も持^もてない、日本語^{にほんご}もわからないという状況^{じょうきょう}はいけません。そして、就職^{しゅうしょく}も難^{むずか}しくて、15歳^{さい}、16歳^{さい}で働^{はたら}き始めるとい^{はじ}うのも難^{むずか}しいことではないかと思^{おも}います。それで小牧市^{こまきし}は外国籍^{がいこくせき}の子どもたちが多^{おほ}いので、教育委員会^{きょういくいんかい}や行政^{ぎょうせい}の力^{ちから}で、そういった不^ふ就学^{じゅうがく}の子どもたちの居場所^{いばしょ}があれば、と思^{おも}います。

(近藤会長)

国際交流協会^{こくさいこうりゅうきょうかい}でそのような教室^{きょうしつ}はやっていますか。

(須崎委員)

日本語^{にほんご}教室^{きょうしつ}はありまして、そこに子どもたちも来^きますけれど、今^{いま}のところ、学習支援^{がくしゅうしえん}の教室^{きょうしつ}はやっていません。

(事務局)

今^{いま}のお話^{はなし}で、昨年^{さくねん}の12月26日^{がつ にち}に外国人集住都市会議^{がいこくじんしゅうじゅうと し かいぎ}というの^こがございました。平坂委員^{ひらさかいいん}がおっしゃたような話^{はなし}がでまして、飯田市長^{いだしちやう}さんから、来日^{らいにち}する子どもたちにとつて、これは差^さし迫^{せま}った問題^{もんだい}であると、文部科学省^{もんぶかがくしやう}ですとか各^{かく}省^{しょう}庁^{ちやう}に熱心^{ねっしん}に訴^{うた}えておられました。そして、これはひとつの都市^{とし}だけ解決^{かいけつ}できる問題^{もんだい}ではなく、いくつかの市^しからも同^{おな}じような話^{はなし}がありました。それで、国^{くに}を挙^あげて対策^{たいさく}をとってほしいと外国人集住都市会議^{がいこくじんしゅうじゅうと し かいぎ}で行政^{ぎょうせい}として願^{ねが}いをしたわけ^{わけ}です。

(中村委員)

プラン15ページ^{ぷらん ぺーじ}にありますが高^{こう}齢^{れい}者^{しゃ}などの支^し援^{えん}で、語学^{ごがく}に關してな^かのですが、子どもたちは、学校^{がっこう}で日本語^{にほんご}を覚^{おぼ}え、社会人^{しゃかいじん}は会社^{かいしゃ}などで日本語^{にほんご}を覚^{おぼ}えること^{こと}が多^{おほ}いのですが、(専業主婦^{せんぎょうしゆふ}の)母^は親^{おや}、高^{こう}齢^{れい}者^{しゃ}など、自^じ宅^{たく}からあ^あまり出^でない人^{ひと}は何^{なん}十^{じゅう}年^{ねん}住^すんでいても日本語^{にほんご}がで^できないとい^いうこと^{こと}があ^あつて、友^{とも}達^{だち}もで^できない、それ^{それ}で余^よ計^{けい}に引^ひきこもつてしま^{しま}うとい^いうこと^{こと}が多^た々^たありま^ます。それで小^こ牧^{まき}市^しとして^{として}はど^どうい^いった取^とり組^くみをしてい^いくのかお伺^{うかが}いた^たい^いです。

(事務局)

小^こ牧^{まき}市^しにはいろ^{いろ}んな母^ぼ語^ごを持^もつ方^{かた}がおみえになり、それら全^{すべ}ての言^{げん}語^ごに對^{たい}應^{おう}をするのは、難^{むずか}しいです。我^{われ}々^{われ}として^{として}は、日^に本^{ほん}語^ごを覚^{おぼ}えていた^{いた}だきたいとい^いう願^{ねが}い^いが^があ^ありま^ます。です^{です}ので、こ^こうい^いった日^に本^{ほん}語^ご教^{きょう}室^{しつ}があ^ありま^ますよ、と案^{あん}内^{ない}をさ^させていた^{いた}だいてお^おりま^ます。そ^そこで、同^{おな}じ国^{くに}から来^きた方^{かた}や、同^{おな}じ言^{げん}語^ごで話^{はな}す方^{かた}もい^いま^ますので、そ^そこから情^{じやう}報^{ほう}を得^えたりするこ^ことがで^できま^ます。プ^ぷラ^{らん}策^{さく}定^{てい}にあ^あたり、

アンケートをとったのですが、そういった、言葉がわからないからということで、引きこもってしまっている方はみえるのですけれど、実際ポルトガル語であれば、ポルトガル語で対応するスーパーや飲食店もできてきていますので、日本語を使わなくても生活できてしまうから日本語ができないという方も増えてきております。我々としては、なるべく日本人と、いろいろな国の方と交流していただいてという流れになるようにしていきたいと考えています。

(中村委員)

プランの28ページですが、自動翻訳機についての記載がありますが、今どれくらい台数がありますか。

(事務局)

多文化共生推進室において、2台レンタルしております、基本的には窓口にて活用しています。現在は試験的な活用の段階でして、今後はもっといろいろなところで活用していきたいと考えています。

(小柳委員)

平坂委員がおっしゃったように、外国籍の子どもたちが増えてくると、全てに対応することが難しくなってきますが、プランとしては、100パーセントの解消を目指して進めていくわけなのですが、ひとつの例として、トルコから来日した双子の兄弟がいました。中学3年生に編入したのですが、まったく日本語がわからないということで、今は学校の先生の働き方や負担を考えるとできないでしょうが、早朝から猛勉強しておりました。私も、地域の子供たちですから気にしておりました、校長先生にお話を聞いたのですが、たった半年あまりで日本語をマスターし、二人とも、学校は別々ですが、公立高校に見事合格したということでした。ですので、来日した子どもたちの励みになる、希望になるような事例も表に出しつつ、支援する体制をとっていただきたいと思います。

(平坂委員)

今のトルコから来日した兄弟ですが、実は3人兄弟でして、私の日本語教室に来ておりました。朝も来て、夜も来て、一日5時間くらい日本語の勉強をして、3人同学年として高校受験をしたいということでした。3人のお父さんは教育に関して子どもの教育のためならば、どんなにお金がかかってもいいという考えでしたのでとても熱心でした。その影響で3人とも日本語に対しての考え方

がとても前向きで、将来日本で仕事がしたい、と。そのためには高校を卒業していないとできないのだという考えをもって勉強していました。ですので、3人合格したと聞いたときはとても嬉しかったです。テスト前になると、教室に来てテスト勉強したり、わからない日本語を書いたりしていました。日本語を勉強しているときは、自主的にトルコ語のメモを作ったりと努力していました。そういった子どもたちの頑張る姿勢を、せっかく来日したのですから、子どもたちの芽が出ない、出るところがないというのは受け入れる側としても辛いものがあります。ですので、高校に合格した外国籍の子どもたちのニュース、というものがあってもおかしくないのです。外国籍の子どもたちが小牧に来て、見事公立高校に合格するというニュースが子ども向けにいろいろな言語で発信されれば、だったらうちの子どもも頑張れるかもしれない、となるのではと私は度々思います。ちゃんと卒業できるように、入学してからもその後もサポートする、進路について、仕事についてもこういった仕事があるよとサポートがこの多文化共生の中でできたらいいなと考えています。

私は大人のクラスもしていますが、大人は、日本語を使わなくても生活できてしまう環境があるので、本当に日本語に困っていない方がたくさんいます。ただし、このままではいけない、子どもは学校でどんどん日本語を習得していくのに自分は何にも上達していないという大人が教室に来て勉強しています。そういった前向きなお父さん、お母さんのために、やさしい日本語でどんどん勉強できる場があればいいと思います。もっともっとアピールして、たくさん勉強できる場が増える、そういった多文化共生プランでもいいのではないかと思います。

(近藤会長)

参考までにお話ししますと、過年度生の教室は岐阜県可児市でやっており、市が予算を出して、国際交流協会に委託してやっています。子育てサロンは安城市、犬山市もやっています。周辺の自治体で同じようなプランを立てて取り組んでいますから、良さそうな取り組みがありましたら、次のプランになるとは思いますけれども取り込んでいって、これはと思う取り組みがあれば、途中でつけたしていくのも良いのではないかと思います。

(事務局)

いろいろなご意見をいただきました。第2次プランが新しいスタートとなりますので、今後ワークショップなどで意見をいただきながら進めていきたいと思っています。また、先ほど小柳委員や平坂委員から意見をいただいたように、みなさまのお力と連携をお願いいたします。

こんどうかいちょう
(近藤会長)

それでは、この件はこれにてということで、次に移ります。次第の4「その他」であります、何かありますでしょうか。

4 その他

じむきょく
(事務局)

じむきょく じむれんらく
事務局より事務連絡をさせていただきます。

ぶらん さくてい こんご よてい さき せつめい がつちゅうじゅん
プラン策定の今後の予定であります。先ほどもご説明させていただきましたが、2月中旬から3
がつちゅうじゅん ばぶりっくこめんと じっし よてい けっか ぶらん おお へんこう
月中旬にかけて、パブリックコメントを実施する予定であります。その結果、プランの大きな変更を
ともな いけん で ぼあい がつげじゅん きょうぎかい かいさい いけん うかが
伴う意見が出た場合は、3月下旬にあらためて協議会を開催し、意見をお伺いすることとさせてい
いただきます。変更を伴わない場合は、パブリックコメントの結果を各委員様あてにお知らせし、
へんこう ともな ぼあい ばぶりっくこめんと けっか かくいんさま し
協議会の開催に替えさせていただきますので、よろしくお願いたします。

じむきょく いじょう
事務局からは、以上です。

すざきいん
(須崎委員)

たぶん かきょうせいきょうぎかい もくてき たつせい お ようこう か らいねんど
多文化共生協議会は、目的を達成したら終わりということが要綱に書いてありますが、来年度か
らこのこういった組織はどのような形になるのでしょうか。

じむきょく
(事務局)

らいねんどいこう ぶらん すいしん しかた ぶらん ページ ぶらん すいしんたいせい らん
来年度以降のプランの推進の仕方は、プランの40ページ、プランの推進体制をご覧ください。
しおよ しいがい かくしゅたい ちようせん かくこうもく たつせい かのう かぎ ちようさ
市及び市以外の各主体が、「挑戦すること」の各項目を達成しているかを、可能な限り調査してい
くとなっており、ここで新たに協議会などを作る予定はございません。その代わり、日本人市民と
がいこくじんしゅみん わーくしょっぶ まいとしおこな だれ さんか じょうきょう なま こえ
外国人市民によるワークショップを毎年行うこととなっております。誰もが参加できる状況で、生の声
きをきながら補完していく予定です。

すざきいん
(須崎委員)

しゅみん わーくしょっぶ いけん き おも めざ しょうこうかいぎしょ
市民のワークショップは、意見を聞くだけになってしまうと思います。目指すこと、商工会議所な
ど各主体に対して継続して取り組んでいくように啓発することが抜けていると思うのですが。

じむきょく
(事務局)

きょうぎかい かたち ぶらん ねが ずいじ
それは協議会という形でなくとも、こういうプランができたのでということをお願いは随時させて

いただきたいと思^{おも}います。

こんどうかいちょう
(近藤会長)

その他、何か^{なに}ございますか。特^{とく}にないようですので、これ^{だい}をもちまして、第2回小牧市多文化
共生協^{きょうせい}議^ぎ会^{かい}を終^{しゅうりよう}了^{りよう}いたします。皆^{みな}様^{さま}、お疲^{つか}れ^{さま}様^{さま}でした。

いじょう
以上